

集団的自衛権行使は、自衛隊が米軍の2軍になることなんです

「集団的自衛権行使容認反対署名」を集める訪問活動で

10月18日（土）、9月の世話人会で決めていた「集団的自衛権行使容認反対」の署名を集める行動に取り組みました。3人で1時間足らずの行動でしたが、土曜日の午後にもかかわらず留守が多く、話ができただけは20軒足らず。中には、「いつも岩岡の学習会に参加して勉強させてもらっています」とか「岩岡にこんな会があるんですか、知らなくてすみません。家族の分も一緒にあとで郵送させていただきます」と言って下さる方もありましたが、「集団的自衛権の行使で日本は守られる」と署名していただけない方が多く、「集団的自衛権行使」の意味がまだまだ理解されていないことを痛感しました。

この日の署名は2筆。10月28日現在、328筆集まっています。

あらためて「集団的自衛権」とは

「集団的自衛権」は「国連憲章」第51条に定められた権利で、「自国と密接な関係にある外国に対する攻撃を、自国が直接攻撃されていないにもかかわらず、実力をもって阻止する権利」（防衛白書・平成25年版）と定義されています。日本も主権国家である以上、自国を守る「個別的自衛権」とともに「集団的自衛権」も保有していますが、「戦争はしない」と宣言した憲法9条を持つ日本が自衛権を発動する際は、次の3要件が必要とされてきました。

- ①わが国に対する急迫不正の侵害がある
- ②排除するために他の適当な手段がない
- ③必要最小限度の実力行使にとどめる

つまり「個別的自衛権と違って集団的自衛権の行使は、わが国を防衛するための必要最小限の範囲を超えているために憲法上許されない」とされてきました。この考え方が1981年に確立されて以降、歴代内閣（主に自民党内閣）はこの考えを踏襲してきました。集団的自衛権を行使するためには、憲法9条を国民投票によって「明文改憲」（条文を変える）する必要があるとされてきたのです。

安倍首相は9条を変えるのが難しいので、閣議で9条の憲法解釈を変え、集団的自衛権行使を容認する決定を行いました。日本を「戦争ができる国」にしようというのです

国のあり方にかかわるこのような問題を十分な論議もせず、閣議決定で進めようとしていることは大問題です。このような戦争する国づくりが、アジアの緊張を高めているのです。

アメリカは日本の集団的自衛権行使を一貫して要求しています。そのわけは？

アメリカは4年に一度は戦争を起こしてきた国です。戦争ではお金も人命も失われます。戦争のトラウマで犯罪も増え、負傷した兵士の医療費もかかります。国民の間には厭戦気分が広がっていると言われます。しかしアメリカは「世界の警察」をやめたくありません。そこで何でも言うことを聞く日本を利用したいのです。日本のお金とアメリカ人の代わりに戦争に行く日本人が欲しいのです。



安倍政権は、中国の脅威に向き合うためアメリカの協力は不可欠と考えています

安倍首相は閣議決定の際の会見で「万全の備えをすることが抑止力。日本が戦争に巻き込まれる恐れは一層なくなる」と述べました。アメリカとの同盟を強化すれば、日本にも利益があるとの考えです。

しかしアメリカは一方で、安倍政権が「中国を不必要に挑発し、韓国との関係を複雑にし、米国内で

の日本の信頼性に疑念を生じさせている」と警戒しています。

「そろそろどこかで戦争でも起きてくれないと、日本の経済も立ちゆかないですなあ」

某大手鉄道会社の社長さん（葛西敬行・JR東海代表取締役名誉会長）が大きな声でこのように話したことを今も忘れない。10年前、政財界人のヨーロッパ・オペラ鑑賞ツアーで、通訳*のアルバイトをした。毎晩、一泊何万円もする豪華ホテルに泊まって音楽祭を巡り、食事の席にも同席した。

「さすがに日本の国土でドンパチやられたのではたまらないから、私はインドあたりで戦争が起きてくれば、わが国としては一番ありがたい展開になると思ってますよ」

集団的自衛権容認の閣議決定（7月1日）。この暴挙を安倍首相が進めるにあたって、議論を先導した首相の私的諮問機関、安保法制懇のメンバーに、あの社長さんが入っている。

「国民の安全を守るため」とか「海外の戦争に参戦することは絶対にない」とか、首相は会見で言っていたが、民主主義の手順も無視して強引にことを進めるこの内閣の本当の目的が「国民の安全を守る」ところにないのは、法制懇の顔ぶれを見ても明らかだ。背後には死の商人がいる。彼らは戦争で一儲けしたいのだ。（*現在は大学の先生です。その方のフェイスブックより）

内田樹さん（武道家・神戸女学院大学名誉教授）は語る



今、この本が売られています。「通販生活 2014秋冬号」の表紙は、「目からうろこ本 第一位はこれだ。わあ、目からウロコがポロポロとれていく…。なぜ安倍政権は閣議決定だけで「海外への自衛隊派兵という戦後最大の重大事＝憲法9条の骨抜き」を国会討議あともわしで進めていけるのか。そんな安倍首相をなぜ40%強の国民は支持してしまうのか。これまでの民主主義はそれほどモロいものだったのか。この本を読むと、そんな疑問の数々が拭われて、安倍人気の正体がくっきり見えてくる。

えっ、そういうことなの？ 題名はむずかしそうだけど、話コトバだからやさしく読める。95頁しかないから1時間もあれば目からウロコがとれる。かもがわ出版 900円＋税。書店で。」と絶賛しています。

「このブックレットは、2014年5月3日の憲法記念日に神戸市で行われた兵庫県憲法会議主催の集会で行った講演に加筆したものです」（著者）

この本の最後、95頁に、「いずれ安倍政権は瓦解し、その政治的企ての犯罪性と愚かしさについて日本国民が恥辱の感覚とともに回想する日が必ずくるだろうと僕は確信しています。…でも彼らが主役の舞台の幕が下りるまでに安倍晋三とその盟友たちがどれほどのものを破壊することになるのか、それを想像すると気鬱になります。僕たちにとりあえずできることは、彼らの破壊の手から「それだけには手を触れさせてはならないもの」を守り抜くことです。そのために全力を尽くすこと、それが僕たちの当面の任務であろうと思います」と書かれています。

私たちも、安倍晋三とその盟友たちに9条に手を触れさせないように、全力を尽くさなければなりませんね。

お知らせ

映画とバザーのつとめ（第2回）

と き：12月13日（土）13：30～15：30

と ころ：岩岡連絡所多目的ホール（小）

映 画：「白バラの祈りーゾフィー・ショル 最後の日々」（121分 2005年ドイツ）

ヒトラー政権に立ち向かった21歳の女性ゾフィーの勇氣に、世界中の観客がすすり泣いた感動の実話。

映画は14時から上映します。映画の前と後にバザーを行います。ご提供いただける品を当日お持ち下さい。よろしくお願い致します。

第83回世話人会

と き：11月15日（土）13：30～15：30

と ころ：岩岡連絡所多目的ホール（小） どなたでもご参加下さい。

憲法9条の会・岩岡 連絡先（事務局）白井篤子（電話）078-967-2758

